

科目名	Introduction to American Culture II						
英語科目	○	ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照				
開講期	秋学期	開講学部等	外国語学部	配当年次	2 年次	単位数	2 単位
教員名	鈴木 雅恵						

授業概要／Course outline

This class is conducted in English, but the target students are non-native speakers. Since the majority of the students are expected to be Japanese, Japanese explanation would be added. The materials used in this semester will start from "the Pilgrim Fathers" and then turn to popular culture in USA, including Hollywood films depicting imaginary Japan, musicals and juvenile literature.

Special emphasis will be laid on the symbolic meaning of witch-hunting, described in "The Crucible" and "Wicked". The students are also asked to find their own theme and do group presentations.

この授業は基本的に英語で行うが、念のために日本語の説明を加える。

「米文化概論I」では、人種、ジェンダー、多文化主義、戦争等のテーマでアメリカの文化を歴史的な流れの中で捉えた。「米文化概論II」では、この知識を土台として、さらに清教徒的な考えと、多文化主義の相克という、現代のアメリカの日常的な視線を再考する。具体的には、現代アメリカの、宗教を含む多様な考え方、消費文化、ハリウッドなどエンターテインメント産業、ジャーナリズム等を柱に、歴史的背景を踏まえながら、アメリカの世界への影響を考察し、異文化理解を深める。また、最近のアメリカの動向を伝える英語の資料(文学作品、音楽、映画、動画、児童文学、ニュース記事等)を受講生自らが発掘し、それらを分析・考察した結果を英語で発表し、ディスカッションするなど、異文化を能動的に学習する機会を組み込む。加えて、留学体験や海外事情の調査を通じて、アカデミックな視点から異文化体験について考察する機会も設ける。

受講生は本授業を通じて自分が興味のあるテーマを選び、それについて調査・研究し、授業終盤にプレゼンテーションを行うことで、世界の文化の多様性に対する理解を深めるとともに、確かな分析力や思考力を鍛える。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク／プレゼンテーション）

ディスカッション:世界のエンターテインメント産業へのアメリカ文化の影響について受講生が調べた結果を、英語で話し合う。

・ICTを活用した授業（形態：クリッカー、タブレット端末、スマートフォン等を活用した双方向型授業／遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

Moodleを用いた資料配布、授業内クイズやフィードバック、出席確認をする。

オンデマンド授業はMoodleで行う。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 Introduction ー日常の中の異文化（授業概要、授業の進め方、評価について説明。さらに、身近な異文化について意識させる。異文化コミュニケーションについても考える。）

第2回 National Holidays, Religion, Race, and Festivals 国民の休日と宗教・文化(休日とマジョリティ、マイノリティの文化の関：を考察する。)アメリカに定着している年間行事(クリスマス、ハロウィーン、など)については受講生が調べる

第3回 Pilgrim Fathers: We will watch a film depicting the arrival of "Pilgrim Fathers" and a record of Plimoth Plantation" マサチューセッツ州にある、1620年にメイフラワーに乗ってアメリカ大陸にやってきた清教徒たちの開拓村を再現した映像をおよび当時のNative Americanの生活を再現した映像を見て、「アメリカ文化」とされるもののルーツについて考える。

第4回 Discussion on Nationalism and Multiculturalism: Who are the Americans? 「アメリカ人」とは誰を指すのか、ということについての議論を行う。

「教員－学生間の対話」実施

第5回 Lafcadio Hearn as an "American" journalist

第6回: The imaginary "Japan" in Hollywood Films: from "Sayonara" to "Last Samurai"

★ On Demand theme オンデマンド テーマ: Michio Ito 伊藤道郎(1892-1961)

ヨーロッパ・アメリカにおいて、第一次世界大戦期から第二次世界大戦後において活躍した舞踊家伊藤道郎について、オンデマンドで学ぶ。The imaginary オンデマンド授業は、第6回の授業時に、90分相当の課題をMoodleに掲載する。

第7回 "The Crucible" (1) : Puritanism and Witch Hunting

第8回 “The Crucible ”(2) : A view on McCarthyism

第9回 Hollywood and Broadway

第10回 :American Juvenile Literature, Film and Musicals

第11回: “Oz” to “Wicked”: American Dream to Multiculturalism

第12回 Group Presentation 1: (世界のエンターテインメント産業へのアメリカの影響について受講生が調べた結果を、グループで発表し、英語で話し合い、これまでの授業の総括に繋げる。)

第13回 : Group Presentation 2 : (アメリカ文化の特徴を表すと思う映像、音楽、ファッションなどのアートを取り上げて分析し、グループとして発表して、これまでの学習の総括としての英語の議論につなげる)。

第14回 : Review and quiz + 学習成果実感調査

#There may be some change in the contents according to the circumstances

事前・事後学修／Preparation and assignments

第1回 : Introduction イン트로ダクションー日常の中の異文化

事前授業 : 自分とアメリカ文化のかかわりについて英語で紹介できるように準備しておく

事後学習 : 日常の中にほぼ無意識で存在しているアメリカ文化について考えててムードルで提出する。

第2回 : 国民の休日と宗教・文化

事前授業 : アメリカの祭りと宗教的行事について、自分なりに調べて、英語で議論できるように準備しておく

事後学習 : 問題点について図書館、インターネットでさらに詳しく調べてムードルで提出する。

第3回 Pilgrim Fathers

事前授業 : キー・ワードを調べ、授業内容とテーマを把握する。

事後学習 : 映像に関する感想と自分の意見をまとめてムードルで提出する。

第4回 : Discussion of Nationalism and Multiculturalism: Who are the Americans?

事前授業 : 今までの授業内容や自分の体験に基づいて、グループワークの中で自分の意見を英語で表現できるように準備しておく。

事後授業 : Moodleで議論の結果を報告する。

第5回 : Lafcadio Hearn

事前授業 : 資料を読み授業内容とテーマを把握する。

事後学習 : Hearnのアメリカでの業績をまとめ、彼のidentityについて、自分の考察をムードルにまとめる

第6回 : The Imaginary Japan in Hollywood Films

事前授業 : 資料を読み授業内容とテーマを把握する。

事後学習 : Moodleに、授業の流れと、自分の考察をまとめる

★オンデマンド テーマ : 伊藤道郎(1892-1961)

事前学習 : 資料に目を通しておく。

事後学習 : ムードルに、理解したことを自分の言葉でまとめる。

第7回 : “The Crucible ”(1)

事前授業 : Arthur Miller および彼に書いた原作戯曲(邦題『るつぽ』)について調べておく

事後学習 : 映画の中で描かれたセーラムの魔女狩りについて自分の意見をムードルにまとめる

第8回 : “The Crucible ”(2)

事前授業 : Millerの時代におこっていたハリウッドの赤狩りについて調べておく

事後授業 : 映像を見た後の、自分の考えと考察をムードルにまとめる。

第9回 : Hollywood and Broadway

事前授業 : アメリカのエンターテインメント産業の歴史について調べておく

事後学習 : 授業で学んだことをムードルにまとめる

第10回 : American Juvenile Literature, Film and Musicals

事前授業 : アメリカの古典的児童文学 “The Wizard of Oz”とそのパリエーションについて調べておく

事後学習 : Ozに描かれたアメリカ的価値観について自分の意見をムードルにまとめる

第11回 : “Oz” to “Wicked”: American Dream to Multiculturalism

事前授業 : “Wicked”についての資料を読んでおく

事後学習 : “The Wizard of Oz” と “Wicked”がどのように対比されているか、あるいは補完されているか分析し、自分の考えをムードルにまとめる

第12回 : Group Presentation 1

事前授業 : 自分で選んだテーマをグループメンバーと発表する準備をする。これまでの授業で扱った各テーマとの関連についても自分の考えをまとめる。

事後授業 : ほかのグループの発表に関する質問や意見をまとめ、また、自分のグループに発表に関しては、改善したPPと、自分の発表原稿をムードルに提出する。

第13回 : Group Presentation 2

事前学習 : 自分で選んだテーマをグループメンバーと発表する準備をする。これまでの授業で扱った各テーマとの関連についても自分の考えをまとめる。

事後学習 : ほかのグループの発表に関する質問や意見をまとめ、また、自分のグループに発表に関しては、改善し

たPPと、自分の発表原稿をムードルに提出する。

第14回：試験と解説によるまとめ

事前学習：これまでの総復習をして試験に臨む。

事後学習：学習成果実感調査に記入し、提出する

* 授業の進行状況によって課題のタイミングや内容を変更することがある。

* 事前学習に各授業90分、事後学習に各授業90分、必要である。上記の内容を確認して、しっかりと事前・事後学習を行うこと。

授業の到達目標／Expected outcome

1. アメリカの歴史、社会、文化について基本的な知識を習得しながら、世界の文化の多様性を理解し、他者を排除せずに受け入れ、異文化に柔軟に対応できる適応力を培う。
2. 受動的に知識を吸収するだけでなく、疑問を持ち、能動的に調査し考察する重要性を理解する。
3. 授業で扱ったアメリカ文化のトピックに関して、論理的に思考することができるようになる。
4. 自分の分析を他者にわかりやすい言葉で表現できるようになる。
5. グループワークを通じてコミュニケーション、ディスカッション能力を高めながら、異文化コミュニケーションの現状と課題について理解できるようになる。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

・ 思考力

専門知識・専門技能

【外国語学部 英語学科】

- ・ 異文化理解
- ・ 世界情勢と学習言語圏の理解
- ・ 言語に関わる調査・研究・発信能力

履修上の注意／Special notes, cautions

授業内容をより体系的に習得するために春学期から履修することが強く望まれる。

基本的に英語で行う講義授業であることに留意すること。

評価方法／Evaluation

授業への貢献度および授業時発表などの平常点（10%）、小テストやレポートなどの課題（60%）、試験（30%）

授業内で課したレポートの内容は随時、授業で紹介しフィードバックを行う。

教 材／Text and materials

資料はMoodleにアップするので、各自ダウンロードして使用すること。

質問や相談の方法／Instructor contact

Office hours: Thursday, 12:00pm to 12:50pm

The instructor's office is Room 515, Research Building 2.the building near the library)

If your visit is not within the office hour, please make an appointment by e-mail first.

（その他の日時は、メールによるアポイントを随時受け付けます）

The instructor's office and e-mail address will be announced through the Moodle.